

---

# 空の詩

伊志嶺絆

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

空の詩

### 【Nコード】

N7991K

### 【作者名】

伊志嶺絆

### 【あらすじ】

空族と呼ばれる者達に拾われた少年の物語

## 空の詩（前書き）

初めての作品ですが  
辛口で審査してくださいね

## 空の詩

俺が生まれたのは争乱の最中殺され死んだ母親から産まれたのが俺だ。

そんな俺を拾ってくれたのが今の親父だ

周りの奴らは「死神の子だ」

「災いをもたらす」って好き勝手言っていたが親父だけは違った。

「死神の子？災いをもたらす？」

「そんな筈ない！コイツは天使の子だ」ってね

俺の背中には小さな小さなタトゥーかのような天使の羽根が描かれていたそのおかげで拾ってもらった訳で天使様々だと思ったよ

親父の職業？は空族

その名の通り空の族

『スカイシップ』って乗り物でまあ空飛ぶ船ね

何をするわけでもなく自由気ままに世界の空を飛ぶそんな感じの仕事かな

そんな空の物語が始まるうとしている

「逃がすんじゃねえぞ！！」船内に怒号が響く

親父だ

二メートルを越す身の丈に百キロ以上の巨漢だが筋肉質で太ってみえないのそれが俺の親父だ

どうやら今日の獲物はどこかの商船らしい

「左舷に着けてぶっ放せ」ドォドォーン

大砲の音が鳴り響く

「よしスピードが落ちた白兵戦だ」

その合図を待っていたかの様に俺は駆け出した。

「待ちな!!」

後ろから透き通った女性のの声が響いた

振り向くとそこには美人で華奢な体つきの人がいた。アイリスだ

彼女の歳は俺の二つ上で俺より先に拾われた

男しかないむさ苦しい空族の中で紅一点の我等がアイドル俺にと  
っては姉的存在だ

「アンタにはまだ戦場は早いのよ」

まただ俺は苦笑いした。前回も前々回もそれ以前から戦場には行か  
せてくれない迷惑な弟思いの御姉様だ

いつもなら渋々食い下がるが今日は違う十六になる誕生日だからだ  
ほとんどの男の初陣は大体十六からだ

食い下らない俺に

「ハァー」とため息をつけ 「剣の腕で私に勝てたらね」――《可愛  
らしくウィンクする》

無理だ

女だがこの空族の切り込み体長的な存在の人に勝てる気がしない  
アイリスはそう言うと同時に男達を引き連れ商船に乗り込んだ

俺はいつもの様に部屋に戻りすねて皆の帰りを待った。

小一時間経つたろうか

周りは静かになり夕日が差し込む

プシュー

扉が開く音と共にアイリスが部屋に入ってきた。すねてる俺を抱き込む様にする

いつもの事だ戦場から戻ると震えた身体で恐怖を和らげるかのように抱いてくる

小さい時からのおまじないのような事だ

小さい時は二人で戦いが終わるまで震えて一日を過ごした時もあったが今、震えているのはアイリスだけだった

五分程経つたろうか震えの止まったアイリスが口を開いた。「今日の戦利品の中に凄いのあるのよ一緒に見に行こ」

さっきまで震えてたのに打って変わって明るい口調で可愛らし笑顔を向けてくる

すねていてもこの笑顔にはいつも負けてしまう

態度は嫌々そうに気持ちはウキウキと戦利品をみについて行った。

船倉にはいつもより沢山のクルーが集まっていた

ガヤガヤ

「何が入ってんだ？」

「これで当分は遊べんだろ」

「開かないらしいぜ」

「マジかよ？」

戦利品の事で話が飛び交ってるようだ

「アイリスちゃんお疲れ」そんな中アイリスに気付き労ってきた周りの奴らは俺の事は眼中にないかのようにアイリスにだけ話し掛けていた。俺は人混みを縫うようにしてお目当ての戦利品を目指し進むと長さ160センチ程の箱に目を奪われた。

「アークだ」

親父が呟く言葉を俺は聞き逃さなかった

## 空の詩（後書き）

どうでした？

続きが気になりませんか？

今は主人公にセリフを与えていませんが次回から増やしていこうと思っ  
ていますので辛口審査お願いしますぐ（＾　＾　）ノ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7991k/>

---

空の詩

2010年12月10日05時10分発行